

SNAPIS ニュース

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

No.53 2020.10

今月のテーマ：平和の証し人



↓
わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。
わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。
心を騒がせるな。おびえるな 　ヨハネ 14 章 27 節

カトリック大阪大司教区 社会活動センター シナピス

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、
やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

TEL 06-6942-1784 FAX 06-6920-2203 E-mail sinapis@osaka.catholic.jp

キリスト教の基盤である聖書によれば、「平和」はただ戦争がない状態だけではありません。より積極的に他者との間で、お互いを尊重し、いたわってより良く生きることをめざすという意味を含んでいます。フランシスコ教皇は2019年11月24日に被爆地広島への訪問したときの記帳メッセージにこう書かれました。「わたしは平和の巡礼者として、この地の歴史の中にあるあの悲惨な日に、傷と死を被ったすべての人との連帯をもって悼むために参りました。いのちの神が、（わたしたちの）心を、平和と、和解と、兄弟愛へと変えてくださるよう祈ります」これはまさに教皇の心の奥深くで、「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」という聖書の一句がこだましていたのではないかと私は想像します。

「平和を実現する人々は、幸いである」(マタイ5章9節)。平和は、実際に自分達の生活の中に作り出し、実現しなければならないのです。つまり、平和のあかし人となります。この言葉を持って、私たちが励まし、かづけてくださるイエス・キリストの助けと導きが必ずあると信じて、平和を追い求め、平和に生きようと祈り願う日々を過ごしたいと思います。

聖書の「平和」はシャロームという言葉です。というのは神の祝福に満たされた個人と共同体の調和とその調和の中での自由で妨げられることのない魂の成長です。日々のささやかな歩み、その中での一つ一つを通して実現する、そんな「平和」をイエス様は示されています。日常の挨拶から始まって家族、親族、共同体、国家まで、地上の動植物から神様まで、実に幅広い意味をカバーしているのが聖書の「平和」です。平和は、相手信じ、相手との関わりを築く呼びかけから始まる。難しい議論からではなく、相手への信頼を込めた呼びかけから始まる。平和を実現する歩みはそこから始まることを心に記し、他の人との喜ばしい信頼関係を形作りましょう。



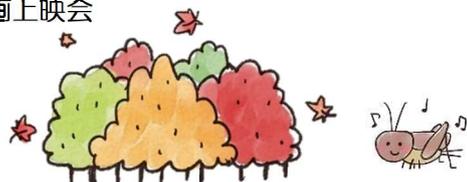
今月のページ

■ ニュースレター 目次 ■

- 1 巻頭言
- 2 シナピスの風
- 3 子どもたちに伝えたい平和
- 4 私と「無言館」
- 5 障がい者委員会より
- 6 時報 10月号より
- 7 教えてください～！！第七弾！
- 9 曼殊沙華と紀州の茶粥◎
- 10 みんなの掲示板
- 11 沖縄とわたしたち
- 12 憲法がかわったらどうなるの？
- 13 あとがき

■ チラシ・ご案内 ■

- ・シナピスの風（A3 小教区と修道会のみ）
- ・10月の祈り
- ・忘れないあきらめないカレンダー
- ・「世界宣教の日」教皇メッセージ
- ・「世界難民移住移動者の日」教皇メッセージ
- ・部落差別と人権を考える「信徒の会」学習会
- ・美術館特別展「無言館」
- ・映画上映会



“へだての壁をとり壊して”

-エフェソ・2-14-

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピスの風

第131号 2020年10月1日発行

10月の祈り

父なる神よ、私は弱い者です。誠実に生きていきたいのですが、振り返ってみると、本当に何を求めていたのかと反省することが度々あります。聖書のヤコブの手紙のことばを思い起こします。
「私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、また、舌をもって、神にかたどって作られた人々を呪います」
(ヤコブの手紙 3.9)

同じように「平和」を口にする私は、周りの人々を排除したり話しかけてくる人に耳を貸さなかったりことばや態度で人を傷つけたりしています。しかし、父よ、私のうちにある平和を築きたい望みは切実なものです。父よ、私を無条件に受け入れ、私を無限に愛し、私の歩みを支えてくださるあなたの愛に目覚めさせてください。その中で味わう平和は、私を清め、平和をもたらす者に変えます。この平和の証し人になりたいのです。アーメン。



シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターとともにお送りしております。教会で、ご家庭で、日々のお祈りにお使いください。シナピスのホームページからも、ダウンロードしていただけます。

黙想会のお知らせ

— 平和の使徒となるために —



「平和をもたらす人は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ 5・9)
わたしたちは日々どのような生き方に召されているのでしょうか？神のみことばを聴き、黙想することを通して考えたいと思います。主キリストに遣わされ「平和の種」をまく人になることができるように共に祈りましょう。

申込み締切: 2020年11月15日(日)まで

* FAX カメールで下記申込み先までご連絡ください。

日時: 2020年11月22日(日) 15時~23日(月) 15時
場所: 宝塚黙想の家 〒665-0854 宝塚市売布山手町10-1
参加費: 7000円
定員: 12名 (先着順・定員になり次第締め切ります)
主催: カトリック大阪教区 社会福音化部
申込み: 社会活動センターシナピス
☎ 06-6942-1784 fax 06-6920-2203
E-mail sinapis@osaka.catholic.jp

2020年 International Day (旧国際協力の日) イベント、ミサの中止

10月18日に大阪カテドラル聖マリア大聖堂で予定されていた教区インターナショナルデー(旧国際協力の日)のミサと交流イベントは、コロナ禍のため中止になりました。このため今年は各地区やブロック・小教区のレベルで「多言語によるミサ」を行ったり、外国人・移住者たちとの兄弟的な交わりを深めるための何らかの取り組みを可能な範囲で持つことが勧められます。教会がすべての人に開かれていることを証しする機会になることを願います。
* 詳細は教区ホームページ参照

カトリック大阪教区・部落差別と人権を考える「信徒の会」11月学習会

封印された殉教

「国家による宗教弾圧」と「宗教団体の戦争協力」を考える!

日時: 2020年11月21日(土) 13:00~15:00

場所: サクラファミリア 2階・聖堂
発題者: 野村英隆さん(信徒の会・阿倍野教会)
特別ゲスト: 佐々木宏人さん(著者・荻窪教会)
*参加自由



主催: カトリック大阪教区・部落差別と人権を考える「信徒の会」
連絡先: 06-6939-9771 (信徒の会)

運転ボランティア募集!!

移住者の引っ越し家具運搬のため、軽トラックや乗用車を運転して下さる方を募集しています。車の準備、荷物の運搬等の力仕事は当方でいたします。
お電話かQRコードでご連絡ください!



医療用防護ガウンは必要ありませんか

今まで2000枚以上を医療機関に提供してきた医療用ガウン、とてもきれいに作られていると好評です。診療所、介護施設、訪問介護などで医療用ガウンが必要などをご存じでしたらぜひご連絡ください。最初は見本で何枚かお送りします。
まずはお電話でご連絡ください! ☎06-6942-1784



家電・生活用品 ご寄付のお願い

引っ越し、買替えなどで、使えるけれども処分を予定されている家電製品や生活用品がありましたらぜひお分けください。
例) 掃除機、洗濯機、ガスレンジ、ミキサー、未使用枕カバー、シーツなど
お電話かQRコードでご連絡ください!



QRコード



子どもたちに 伝えたい平和



「本当の平和」って何だろう？

和泉教会信徒 五来 ゆみ

3年前の夏、岸和田地区日曜学校のデイキャンプのテーマは「平和」でした。

子どもと大人合わせて70人ぐらいの前で、私はまず「日本って今、平和だと思う？」と質問しました。

「平和だと思う人!？」手を挙げたのは、子どもは半分ほど、大人はたったの2人でした。

そもそも平和って何だろう？頭の固い大人はまず考えてしまいます。

戦争がなければ平和？毎日食べるものに困らなければ平和？自分と自分の家族が平和ならば平和？

デイキャンプの「学び」では、まず世界を知るところから始めました。

映像でフィリピン、ガーナの子どもの現状、シリアの難民、内戦から安定を取り戻したコロンビアを見たあと、畳3帖分の大きな世界地図を床に敷いてみんなで囲み、わたしたちにできることは何かを分かちあいました。

世界にはいろんな国があり、特に映像で見た国では、みんなと同じぐらいの年のお友達が学校にも行かずに食べるために必死で働いていること、生きるために必死だということ、戦火で必死に逃げながら生きようとしている人がいること。そして日本でも食べ物に困り学校に行けないお友達もいるということ。

でも、映像に出できたお友達は、どれだけ貧しくても、もし近くにもっと貧しい人がいたら、その人のために少ない食べ物を分けてあげる、やさしい「心」を持っている。日本はモノがたくさんあって、たいていの人には食べ物に困らなくて「平和」なように思えるけど、「心」は平和なのかな・・・？と問いかけました。

「平和」・・・一言では言い表せないぐらい、いろいろな意味を持つ。

でも、神さまが望んでいらっしゃるのには「本当の平和」

どこの国に住んでいようと、どのような境遇であろうと、「神さまから与えられた命」にはランキングなど無い。

みんな等しい、同じ、いのち。

すぐそばにいるお友達も、遠い国にいるお友達も、大切に思うこと、忘れないこと、そして、祈ること。

10月号に同封のチラシでもご案内しておりますが、今、六甲アイランドの「神戸ゆかりの美術館」にて、特別展「無言館 遺された絵画からのメッセージ」が開かれています。その「無言館」について、仁川教会信徒の富田寿一さんに、次のような文章を寄せていただきましたのでご紹介します。

私と「無言館」

館主の窪島誠一郎さんが「無言館」を作る決意をしたのは、野見山暁治画伯との出会いがきっかけでした。野見山さんは、東京美術学校（現・東京藝大）を卒業してすぐに「満州」（現 中国東北部）に出征し、戦地で重病になり日本に帰国し、後に画家として活躍された方です。「才能ある仲間を戦場に置いたまま、自分だけ帰ってきた。この“罪”が許されるなら、彼らの絵を観てもらえる美術館を作りたい」と、生きている事を戦後ずっと苦しんできたと告白されたのでした。

この告白に、窪島さんは「戦没画学生の遺作を救い出したい」という気持ちになり、“ご遺族をめぐる旅”を始めました。どの絵も、戦後50年以上の歳月を経て傷みが激しかったので、画学生のもう一つの命である「作品」を修復した結果、「無言館」の中で光を放ち、一流画家の絵とは別の感動を与えてくれています。

出征を見送る人たちが外で待っているのに、「あと5分、あと10分この絵を描かせてください」と叫びながら恋人を描き続け、「生きて帰ってきて続きを描くから」と、戦争への抗議ではなく、家族や恋人への愛や感謝が伝わる絵だからでしょう。

「無言館」ができた当時、最も若い戦没画学生（23歳）として作品が展示されている叔父、芳賀準録についての思い出を語ります。

離れで絵を描いていた母の弟、準録に、召集令状が来たことを走って知らせたのは、当時5歳の私でした。その時の叔父の驚愕狼狽ぶりは、今も忘れることができません。彼は「葬儀には、写真ではなく、この絵を使ってほしい」と一晩で自画像を描き上げ、戦地に向かいました。

次の思い出は、彼が戦死した時のことです。現在「無言館」に展示されている大きな「静物画」をみんなで囲んでいる光景です。準録の母は涙を見せず、毅然として無表情だったことが、幼い私には不思議でした。後に、戦死者の母は「靖国の母」と呼ばれ、涙を見せてはいけなかったことを知りました。日本には、230万人の「靖国の母」がいたこととなります。

「戦争さえなければ、あの子もまだ絵を描いていたのに」と、私の母は生前口癖のように言っていました。「戦争」は、ただ「戦地で兵隊が死ぬ」という事以上に重い意味があります。

戦後75年の歳月を経て、戦争を知らない世代が増えてきた今、一人でも多くの方に「無言館」の事を知っていただき、戦争の悲惨さを考えていただきたいです。



芳賀準録「自画像」：出征前に一晩で描いた自画像

「種をまきました・・・芽がでない！！」

障がい者委員会 たけさき ゆうこ
嶽崎 裕子

我が家では、農地を借りて小さな菜園を耕している。昨年の夏、「万願寺唐辛子」の苗を購入、たくさんのおいしい万願寺唐辛子を収穫した。よし、来年はこの種を蒔こう！！張り切って今年、大切に保存していた昨年の種を蒔いた。何回蒔いても「芽はでてこない！！」。どうしてなのか？疑問をもち、調べてみた。種苗店に行ってきたとみると・・・「その苗は1代限りのもの。種苗会社がそのように作っているのです」という回答。種を蒔いたら芽は出るものだと思い込んでいた私は、頭を抱え込んでしまった。

たぶん、野菜全般が、そのような風潮になっているのではないかと、思いながら、種苗法をひも解いてみると・・・今、その「種苗法改正」の動きがあるようだ。

農家の自家製種苗摂取を禁止し、種は種苗店より購入するという方向に動いているようでした。詳細はまだ勉強中ですが・・・。それだけ聞いただけで、怖さが押し寄せてくる。

「万願寺唐辛子」を、どんな方法で種から芽が出ないようにしたのだろう。薬か、遺伝子操作か・・・。それを食べて、体に影響はないのか？

そういえば、種なしブドウも食べやすいから、今は当たり前のように食べているけれども、やはり薬品処理をしていると聞いたことがある。

日本において、難病と指定されている病気の数 は 333 件であると、TV で言っていた。原因はわからない。日本の総理大臣も難病でやめていった人がいる。自分がやってきた食に関する施策が難病を起こしているかもしれない、という思いはないのか？

植物にとって、風や鳥は何の役にも立たなくなる。いくら種を運んで行っても、そこに芽は出ず、繁殖はない。人間が操作をしない雑草のみが生い茂るかも知れない。

「ラウダート・シ」が、頭の中を横切る。

食を気にする人たちは、添加物等に注目する。

でも、その、食物の種にまでは言及することは少ない。

地球規模で考えると、種の存在は大きい。

人間に与える影響は一番強いと思う。

みんな、種の存在に、目をそむけてはいけない！！



社会の福音化をめざして



昨年は「再宣教一五〇周年」を通して、これまでの神様の恵みを感じた。今年は大坂教区に「新福音化委員会」が新しく設立された。これからの私たちに与えられた使命を意識し、担っていききたい。

新福音化委員会担当 ヌノ・リマ

特に急激に変化する今の時代では、私たちはイエス様を信じる喜びを分かち合うことによって現代社会の「福音化」を目指します。

聖書が持つ影響力は、福音的な生きるエネルギーです。順調な歩みが出来ない時、現在のコロナ禍のような状況にある時

に、「にもかかわらず前に向かう」という姿勢、「大変だからこそ一緒に協力しよう」生き方が福音的なエネルギーの特徴です。順調な時に勢いがあるのは当然ですが、逆境の時、困難にある時にもしっかりと進んでいくことを支えてくれる神さまからの力、導きが福音的なエネルギーの特徴です。

新福音化委員会の使命は、今の社会の中で改めて福音的なエネルギーを神さまから受け取り、共有して、より良い社会を建設していくということです。一人ひとりに神さまとの確かな絆を育むこと、神様のお望みになる世界を建設する努力を継続することです。様々な場面で、社会の福音化を目指す活動を支えることです。委員会は

大阪教区の社会活動部門の中で、「正義と平和」の活動などとともに、相互に協働しながら社会の福音化に奉仕していきま

す。そのために情報発信をしたり、福音宣教にかかわる小教区やブロック、各施設（学校等）の活動を支えたり、教区レベルの企画をする予定です。

まずは近いうちに教区の皆さんにアンケートをしたいと思えます。それぞれのところで直面している課題、優先すべきと思われることをぜひ聞かせてくださいませんか。社会の「福音化」のために働く皆さんの知恵を貸していただけたら嬉しいのです。どうぞ、よろしくお願ひします。

◆大阪教区時報 10月号より

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、その悩みを少しでも分かち合うことのできる、教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」増補新版より

社会福音化部より

コロナ禍の中でもできる INTERNATIONAL DAY を！

今年はコロナ禍のため教区のミサとイベントは中止されましたが、小教区レベルで工夫をして、外国人移住者の人々と交わりの時を持てればと思います。感染拡大防止のために制約がありますが、社会福音化部門として、具体的な取り組みの例を考えました。参考にしていただければ幸いです。

当日のミサの典礼を多言語で行う。聖書朗読、共同祈願、説教を翻訳。

各国語であいさつをしあう。

外国出身の移住者に 典礼奉仕をしていただく。

この日は信者全員がひらがな、カタカナで名札を付ける。



それぞれの国の文化やお国柄について紹介する。スクリーンに映し出す。音楽を流す。



リモート・オンラインでの交流の方法を考える。



ミサの後に、教会に来ている外国人の方たちの紹介をする。（個人・グループ等）

各国の食べ物・料理の分かち合いをする。会食が難しければ持ち帰り。



教えてください~!! 第七弾!

「エコジカルな回心」とは?



コロナと環境

コロナ感染症の拡大を防ぐため、世界全体で移動や経済活動が抑えられ、大気汚染の大きな原因となる窒素酸化物（車の排気ガスに含まれる）やPM2.5（微小粒子状物質）、また、観光客を能力を超えて受け入れるオーバーツーリズムが減り、空、海、川、空気がきれいになったと報告されています。



* 観光客が減り、大量の観光用ボートが休業となったベネチアでは、運河の水路が澄み、魚が戻ってきた。



* ロサンゼルスでは自粛生活が続き、車の排気ガスが減ったため、空気が澄み、いつもは曇っている高層ビル群の向こうに雪山がくっきり見えるようになった。



* インドや中国では PM2.5 などの有害物質が激減し、青空や星空が戻った。



人のふるまい一つで川や空気が本当にきれいになるんだ! すごい!



でも、社会が動きだしたら、またもとに戻ってしまうわね。考え方を根本的に変えなければ。

すべて朝日新聞デジタルより

<https://globe.asahi.com/article/13609035>

どのように変えたらいいのか・・・

人間と自然の関係を取り戻すために

観想し、世話をすること

教皇フランシスコは、9月16日の一般謁見で次のように述べられました。
パンデミックから脱するために、互いにケアをしあうこと、特に最も弱い立場に置かれた人、病者、高齢者などを支えることが大切です。同時に、大地やすべての生物にもそのいたわりのまなざしを向けなければなりません。わたしたちの共通の家、被造物は「資源」ではなく、その一つひとつが独自の価値を持ち、それぞれのあり方を通して、神の無限の叡智と愛を反映します。その価値と神の光を見出すには、沈黙し、耳を傾け、観想することが必要です。いのちを守るとい自分たちの召命を忘れる時、人間は略奪者となってしまいます。私たちは生き、発展するために大地を耕しますが、それは搾取を意味せず、常にわたしたちの使命である「世話」を伴うものでなくてはなりません。「観想」し「世話」をすることが人間と自然との関係を正し、再びバランスを取り戻すための道です。

コロナで自宅待機になったとき、毎日自宅からすぐの川沿いを散歩しました。春風に揺れる花、きらめく川面、夕日に染まる空。息をのむような風景が目の前に広がっていました。身近にこんな場所があったなんて!と今更ながら驚きました。まずは自然の美しさを感じてみたいと思います。





曼珠沙華と紀州の茶粥 ⑥

石井 望

～ 紀州のキリシタンと「転びキリシタン」にまつわるエピソード～

☆ 「転びキリシタン」の系譜の二つの側面

前回は江戸時代の切支丹禁教令、島原の乱以降のキリシタン取締り強化のための諸制度は、キリシタンのみならず全住民支配強化の根幹をなす政策となったことに触れました。この制度下ではキリシタンやその子孫で生きている者はすべて棄教した「転びキリシタン」の系譜というわけです(弾圧され殉教したのはキリシタンだけではなく、日蓮宗不受不施派、涅槃宗、後に悲田宗も同じ邪宗門の扱いを受けます)。この「転びキリシタン」の系譜は、監視を受ける側でありながら、監視体制に取り込まれたことも、前回触れました。今回は、このようなテーマと関連する可能性のあるエピソードをいくつか拾って紹介します。

☆ 転びキリシタンの和尚のエピソード

江戸時代初期の紀州の日高郡の大庄屋田端家の文書に、一人の「転びキリシタン」の記録があります(1977年刊『日高郡誌』参照)。江戸時代初期、美浜町吉原にある松見寺の住職、乗圓和尚は、かつての豊臣秀吉の紀州攻めで荒廃していた浄土真宗の「道場」を再興し、真宗松見寺初代住職となったのですが、1635年に御法度の切支丹であることが発覚し捕らえられました。現在知られている紀州のキリシタン捕縛の最も古い記録です。しかし寺の門徒たちの嘆願によって乗圓和尚はお咎めを受けず住職に復帰しました。ただし和尚も松見寺も天台宗に転じ、天台宗和歌浦雲蓋院の監視下に置かれた、というものです。現在の松見寺住職は、この記録をご存知なく、寺伝では、「涅槃宗」だったとされているそうです。

○乗圓和尚は、いつどこでキリスト教に出会って入信したのでしょうか。○キリシタン発覚時の寺の門徒たちはなぜ和尚の放免を嘆願したのでしょうか。○住職復帰後の和尚は「転び」キリシタンとして監視を受けたのでしょうか。○和尚と寺はキリシタン監視の役割も担ったのでしょうか。様々な疑問と憶測を呼ぶ事件です。

☆ 日高郡高津尾村のキリシタンにまつわる3つのエピソード

- ・日高川中流の高津尾村には、昔キリシタンが日高川上流(龍神?)に逃げたという言い伝えがあります。
- ・高津尾村と龍神村の間には昔から通婚関係があるそうです。龍神村は、第二次大戦後、カトリックに集団改宗したことで知られています。
- ・2019年、高津尾出身の方が、一寸ほどの金属製のマリア像をカトリック教会に持ってこられました。100年くらい前、父親が少年の頃に日高川上流へウナギ釣りに出かけたとき、河原で発見したもので、小さな祠を作って仏壇に置いていたそうです。無原罪のマリア像なので、約150年前以降のフランス製のようです。浦上キリシタンの流配時か、それ以後にもたらされたものか不明です。

次回⑦は今回に続き、紀州の「転びキリシタン」の系譜を考えるうえで気になる龍神村にまつわるエピソードを中心に紹介したいと思います。



みんなの けいじばん



こんにちは！ようやく秋めいて気持ちのいい風が吹くようになりました。みなさんいかがおすごでしょうか。
9月22日の午後、関西のカトリックスカウトの中学生9名がシナピスを訪問し、半日研修会を行いました。



キリスト教章修得研修会

「(どこかの支援団体ではなく)
あなたに助けてほしい、
と言われました」

シナピスのスタッフが、世界の難民の現状と、20数年前に玉造教会でアフガン難民と出会った時の話をしました。

「ぼくは、命の危険を感じて逃げてきました。難民条約批准国の日本だったら守ってもらえると思ったのに」
難民申請中のイラン出身の青年が、難民になった経緯、入管収容中の厳しい生活、仮放免の今の暮らしを話してくれました。



「時には男性もこれを着て身を隠し、
国境を越えました」

イスラムの女性が着用しているブルカを
スカウトの生徒も着てみました。



終了後、スタッフに「人生観が変わった」と
話しに来たスカウトの生徒がいました。

すぐに正解は見つけられなくても、この研修が、
何かを考えるきっかけになったら嬉しいです。

掲示板

Stop the Wall Campaign

パレスチナの分離壁を止めよう！

<http://www.stophthewall.org/> (英語)

イスラエル政府が、テロリストの侵入を防ぐという名目で、ヨルダン川西岸地区に壁を建設しています。ところが、この壁の大部分がパレスチナ側に作られており、パレスチナの土地が収奪され、コミュニティが破壊されています。また、移動の制限により、パレスチナ人の労働・教育・医療の権利が奪われています。パレスチナの人々の、『イスラエル政府による壁建設のため生活環境が破壊されています、助けてください！』の声を伝えたい、一緒に音楽活動したい、お祈りならばできる・・・という方、お知らせください。

ピース9サンタクロース

連絡先/sacre.coeur.maria@gmail.com

入管職員による収容者への暴力に対する 裁判傍聴のお知らせ

近年、入管での長期収容問題と入管内部での人権侵害がメディアでも報道されています。

2017年に大阪入管内での食事に対し職員に抗議したところ、手錠をかけられて「保護房(通称『懲罰房』)」に入れられ、複数の職員から暴力を受けて重傷を負ったペルー人のブルゴス・フジイさんが、入管を相手に裁判を起こしました。入管内の暴力を許さないためにも、応援をよろしくお願いします。

日時：10月7日(水) 13時30分から

場所：大阪地裁 1006号法廷(本館10階)

「あんなこと、こんなこと」「ゆずります」「探しています」、ともにFAXかメール、右のQRコードからご投稿ください。QRコードの読み込みにはスマートフォンなどでQRコードリーダーのダウンロードが必要です。

☆投稿FAX：06-6920-2203 メール：sinapis@osaka.catholic.jp

☆締め切り：2020年10月16日(金)まで



「安倍政権の継承」を掲げた菅政権誕生は、沖縄ではどう受け止められているのでしょうか

安倍政権の沖縄政策は県民にとってかつてないほど厳しいものだったといわれます。安倍元首相は7年8ヶ月のあいだ「辺野古移設は普天間飛行場の危険除去のための唯一の解決策」と言って譲らず、沖縄県民との間に深い溝をつくってしまいました。この姿勢を支えたのはほかならぬ新首相です。

その新首相は総選挙さなかの記者会見で、沖縄振興と基地問題は「結果的にリンクしている」との考えを示しました。本来沖縄振興政策は、甚大な被害をもたらした沖縄戦、戦後も長く続いた米軍支配の歴史、離島の多さなどの理由で行われてきました。露骨な「リンク論」は、従来からの失業率の高さに加え、コロナ禍で深刻な経済的打撃を受けた沖縄に、更に分断を広げる「アメとムチ」になるのではないかと、県内では警戒が高まっています。

菅官房長官（当時）と沖縄

その② お金の配り方 官房長官は沖縄基地負担軽減担当大臣を兼ねていました。その権限を使い沖縄に対する振興予算の内、自由に使える「一括交付金」は徐々に減らし、県の頭越しに辺野古には補助金を直接交付する「沖縄振興特定事業推進費」を新設した。

その③ 2015年4月 辺野古移設反対を公約に掲げ当選した翁長知事が移設計画の見直しを求めると、官房長官は「埋め立ては粛々と進めている」と答えた。知事は「米軍軍政下に、『沖縄の自治は神話だ』と言った最高権力者キャラウェイ高等弁務官と重なる。県民の怒りは増幅し、辺野古の新基地は絶対に建設することはできない」と強く批判した。沖縄では与野党含めた基地反対の意思がこの後高まっていく。

その① 功績？ 官房長官は米軍北部訓練場を一部返還させたと胸を張る。しかしその見返りに緑豊かなやんばるの森に、米軍のオスプレイパッドを建設、東京や大阪などから機動隊員を投入、住民の抗議、抵抗を強制的に排除した。



新しい政権の沖縄政策、厳しい目で見て私たちも声を上げていかなくちゃね。



「粛々と」は「聞かないよ」「言うとおりにしろ」って意味に聞こえる。

その④ 2015年9月 移設工事の中止を求めて安倍首相と官房長官と会談した際、知事は沖縄の苦難の歴史を語り「私の話は通じませんか」と問いかけた。官房長官は「私は戦後生まれなので、沖縄の置かれてきた歴史についてはなかなか分かりません」と答えた。その言葉に対し「お互い別の70年を生きてきたような気がする」と知事は語った。

その⑤ 2019年2月 移設工事の賛否を問う県民投票が行われ、反対が7割を超え、県民の意思がはっきりと示されたにもかかわらず、官房長官は「結果を真摯(しんし)に受け止める」と言いながら、工事を「粛々と」進めた。

歴史に触れよう！

「第三次琉球処分」

日本の降伏後も日本政府は存続し、連合軍による間接統治が行われました。行政機構が壊滅的な打撃を受けた沖縄でも、1945年8月15日に米軍政府が招集し住民代表者会議が開かれ、沖縄諮詢会（のちの沖縄民政府）が誕生、早くも9月には市長と市議会選挙が行われました。このとき本土に先駆けて25歳以上の女性にも選挙権が認められています。行政機関の整備、教育、財政も整えられ、議会も発足します。

ところが米ソ関係の悪化、中国での共産党の勢力拡大などで冷戦体制が深刻化するにつれ、米軍は沖縄を「太平洋の要石」とみなし、本土から切り離して基地機能を強化するようになっていきます。同じころ昭和天皇はGHQに「メッセージ」を出しました。それは「ソ連の脅威に備え、日本の治安維持のために米軍の沖縄占領は必要で、主権は日本に残し米軍が租借することが望ましい」というものでした。

1951年、サンフランシスコ講和条約によって日本は占領から脱し独立しましたが、沖縄は米軍が統治することになりました。日本は1972年の復帰まで、沖縄を米軍の施政権下に置き去りにしたのです。

憲法が変わったらどうなるの？ 第23弾



平和の「狂人」 二度と戦争をしないということ。

このあいだ、大阪の門真生まれの総理大臣幣原喜重郎を描いたドキュメンタリー映画を、門真市在住の方から借りて観たよ

大阪出身だと興味津々で、どういう人だったの？

●幣原外交

幣原は1872年に大阪門真で生まれ、大学卒業後外務省に入った。外務次官として第一次世界大戦をめぐる戦時外交、シベリア出兵、パリ講和会議の処理にあたり、戦争のおぞましさを知る。大戦後、世界が平和に向けて動き始める中、史上初の軍縮会議であるワシントン会議が開催されると全権を務め、その後外務大臣として各国との信頼関係を築き、幣原外交と呼ばれる国際協調外交を進めた。また中国で内戦が起きた際も内政不干渉を貫き、話し合いによる解決を促し続けた。一方、軍部を中心に中国での勢力拡大を求める当時の日本国内では「軟弱外交」と非難され、外交の一線から退くことになった。平和的解決につとめた幣原外交にかわり日本は強硬外交に転換、戦争へと舵をきり、日中戦争、そしてアジア太平洋戦争へと突き進み、敗北する。敗戦後の10月、幣原は昭和天皇の説得により総理大臣に就任した。時に73歳だった。

1945年8月15日玉音放送を聴いた幣原は、その日、電車の中でみた光景に衝撃を受けた。
「戦争なんてしなければよかった」「わたしの親、兄弟はなんのために死んだ」
「大切な人たちが犠牲になった」と乗客は口々に涙ながらに訴えていた。
これを目の当たりにし、「なにがあっても戦争はだめだ、外交官として、世界を見てきたからこそ、言えることがある」幣原はそう思った。

●世界は「狂人」を必要としている。「ぼくの一生のさまざまな体験からいえること」

世界が一斉に軍備を廃止できればいいが不可能。二度と戦争を起こさず、軍縮を実現させるためにはどうすればよいかと真剣に考えた幣原は、非武装が頭に浮かんだ。武装国の中での非武装は「狂気の沙汰」。しかし「この『狂気の沙汰』である歴史的使命を日本が果たそう。これは負けた国だからこそ言えることだ」と確信した幣原は、自ら「狂人」となってGHQを訪れ、マッカーサーと二人だけで3時間もの間話し合い、その中で憲法9条を提案した。



これが平和憲法誕生の背景なんやね

アメリカに押しつけられた憲法っていうけど、日本人が提案したんやね！



●幣原の限界を越えて



ただ幣原の頭の中に、日本が侵略した国の人々のことはあったのかな？日本は加害国でもある。そのことを決して忘れてはいかんぞ。

あ、そうか。被害を受けた国々にとっては「日本人のための平和」だけじゃ不十分だね。



日本は平和憲法を成立させ、平和、平和といい続けてきたが、加害責任、戦後補償等、いまだに果たしているとはいえない。それどころか、さらに軍備を増強、集団的自衛権行使を容認し、いつでも戦争に参加できる準備をすすめ、アジア諸国に警戒されている。

あの戦争で犠牲になったすべての人を思い、本当の意味で平和憲法を世界の宝とするために、わたしたちは、これからどうすればよいのかな。

ネリさん母子裁判 判決

10月29日(木) 13時20分～
大阪高裁 82号法廷

教皇フランシスコ訪日講話集

すべてのいのちを守るため
私たちに向けられたメッセージの数々

四六版並製 128頁+カラー16頁 定価(本体 1100円+税)

教皇来日から来月で1年。いただいた
メッセージをいまいちと味わいませんか。

☆シナピスにあります。

お求めいただいた方にシナピス限定

教皇メダストラップをプレゼント。

数に限りがあります。お早めに!



活動へのご支援ご協力をおねがいします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

難民移住移動者支援をよろしく願っています。

食料品提供のお願い

例) お米、調味料、缶詰など保存のきくもの

お電話をお待ちしています!!

☎06-6942-1784

◆ HP はただいまリニューアル作業中です。
再開まで今しばらくお待ちください。

あとがき

教会の子どもたちの数が減って、どこも信仰教育に行き詰まりを感じているといった声を聞きますが、みなさん工夫しながら神さまのことを伝え、ともに学ぶ努力をされています。典礼や聖書のことばを教え、覚えることも大事ですが、イエスの生きた時代も今も同じ世界を生き、神からいただいた賜物を大切すること、わたしたちが今生きているそれぞれの場でいのちに向き合う信仰教育の重要性を感じます。神の意に反した人間の行いはいつの時代も常に繰り返されています。こどもだからこそ、こどものうちに現実を見、神さまの思いをしっかりと受け止めてほしいですね。私たち一人ひとりが「平和の証し人」となるために、体と心をしっかりと動かし、私たちが神の国をこの地上で実現していくためにこどもといっしょにまなぶことができればと思います。(H)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆ 広報活動

・教皇メッセージ、司教団メッセージ等
社会活動の指針の伝達

・読者と教会内外の社会活動をつなぐ
機関誌としてシナピスニュースを発行

◆ 大阪教区・社会活動委員会との連携

◆ 学習会研修会の企画

◆ こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆ カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、
カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆ 人権教育の講師を務めるなど教育機関への
働きかけ

◆ 難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪大司教区事務局内



公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約1000m

地下鉄中央線森ノ宮2番出口より 約800m

JR 玉造駅より 約1000m

地下鉄御見線地線玉造1番出口より 約800m

車でお越しの場合

阪神高速13号東大阪線法円坂出口

法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス